



「子供たちの安心・安全を願って」 ～15年間ありがとうございました～

スクールガードとして、子供たちの下校時の安心・安全のためにご尽力をいただきました山下 久雄様（大手2丁目在住）が、この3月末をもってその活動を終わられます。

山下様は現在83歳ですが、平成17年に設立された「相川地区21世紀町づくり協議会」を通して、活動を始められ、相川小児童の下校時のスクールガードとして15年間もの期間にわたって、子供たちを見守ってくださいました。



子供たちを見守り、声をかける山下様

山下様は、児童の下校がある日は午後2時45分頃から午後4時30分まで、松木堀角の交差点で子供たちの下校指導をしています。

これまで15年の間には、真夏の暑さの厳しい時期にも、寒くて北風の強い日にも、毎回毎回、「子供たちのために」の思いの中で取り組んでいただきました。

山下様には、15年間にわたって子供たちの見守りを本当にありがとうございました。

学校では、3月に学校及びPTAで山下様のこれまでのご尽力に感謝の気持ちを伝える機会を予定しています。



学級懇談会ありがとうございました

2月に行われました学級懇談会には、のべ248名の保護者の皆様にご出席をいただく中で行うことができました。

新型コロナウイルス感染症感染防止のため「3密」を避けるために、今回は授業参観は行わないで、事前に収録した授業の様子を15分間程度ご覧いただきました。その後、各学年の1年間のまとめ、会計報告などが行われ、新年度の学校運営と教育課程の改善についても説明をさせていただきました。

また、学級懇談会終了後に行われました令和3年度のPTA学年役員を選出につきましても、スムーズに選出が行われました。ご協力に感謝します。

授業の動画を「保護者限定公開」でお知らせしたところ、13本の授業動画に対して合計で541回再生視聴していただきました。保護者の皆様の関心を感じました。

なお、授業動画の「保護者限定公開」が円滑に運営できましたことも大変にうれしく思います。保護者の皆様には、「視聴モラル」を守っていただき感謝します。今後もこのような方法を適切に活用して、学校や子供たちの様子を可能な範囲でお伝えできればと思います。

スクールカウンセラー活用のふりかえり

本年度から配置された「スクールカウンセラー」（本校担当：藤原淳子スクールカウンセラー）を1年間活用してきました。2月17日に1年間のふりかえりと次年度への見通しを話し合いました。

藤原スクールカウンセラーからは、児童との面談を通して、「相川小の子供たちは、家庭で大切によく育てられている。それは甘やかしということではなく、しっかりとしつけがされている。保護者が子供の家庭生活を適切に掌握されている児童が多い。」
「面談をしてみると、はきはき答えているし、人なつこい部分も多く感じられた。」と全体的に良い印象の話がありました。また、保護者様との面談を通して、「子供のことを気に掛けている。心配をしている。何とかしていきたい。」という気持ちが良い面を感じられたそうです。

新年度については、何か心配事や相談事がある時は、スクールカウンセラーをぜひ活用してほしいと思います。担任を通さなくても活用できます。また、

学校では月1回の「教育相談日」を特設しますので、気軽に担任と話をしていただける機会にしたいと思います。

卒業証書授与式について

6年生の保護者の皆様には、過日の学級懇談会で説明させていただきました。

今年度の卒業証書授与式は、3月23日（火）に行われます。新型コロナウイルス感染症感染防止のため、簡素化・短時間化を基本スタンスに実施します。（甲府市内の小中学校が同じです。）

参加者は、卒業生・保護者・教職員です。在校生を代表しての5年生の参加はありません。

卒業証書の授与をメインとし、卒業生による当日の「合唱」「よびかけ」は、本校の体育館スペースでは感染防止ガイドライン上、実施できないことから行いません。

6年生の気持ちを大切に、感染防止を図りながら、6年間の修了が実感できる卒業式にしていきたいと思っています。

新年度の教育課程について ～学びの保障と感染防止の両立～

過日の学級懇談会時の「学年総会資料」で新年度の主な行事予定については、お知らせさせていただきました。

新型コロナウイルス感染症の「第3波」は、ピークを過ぎようとしています。依然として終息への見通しは立っていません。市町村が示す学校における「地域の感染レベル」は、依然として「レベル1」のため、学校での生活や学習において制限がかかっています。

新年度の教育課程の大方については、編制が完了していますが、やはり今後の感染症の状況は、全く予想がつかないために、いくつかの行事については何度も検討を繰り返しています。特に6年生の「修学旅行」については、年間行事予定上は「5月」と「10月」の両方に設定しました。そして、本校担当の旅行業者様には、複数の計画で仮予約（宿泊先の押さえ）をしてもらっています。いつまで複数の仮予約が可能なのか心配していますが、最大限、業者様には待ってもらえるように交渉しています。

3月下旬から4月初旬の期間から5月の連休にかけての時期も「人の動き」が予想され、第3波に続く波がこないか心配です。また、国が計画を進めているワクチン接種による「集団免疫」の獲得が、いつ頃になるのかも大変に気になるところです。

いずれにしても、新年度も「学びの保障と感染防止の両立」を図るために、一つ一つ事に対して慎重に検討、判断をしてまいりたいと思います。

こんなことがありました ～うれしいエピソードです～

【子供から大人が学ぶ「あいさつ・感謝の気持ち」】

先日、PTAの朝の旗振り当番をしていただいたお母さんから次のような話をいただきました。

新しい集団登校班が15日の町別児童会で編制されました。その日の朝、その新登校班では5年生の男の子が班長として先頭を歩いていました。

男の子は、旗振りをしているそのお母さんに近づく「寒いのにいつもありがとうございます。」と声をかけてくれたそうです。そのお母さんは、とてもうれしくて、放課後、学校へ来てエピソードを話してくださいました。

【保護者の「連絡帳」から教師が学びました】

保護者の方から連絡帳を通しての連絡や相談は、内容によっては、管理職の方へ担任から報告や相談となります。

先日、担任から報告があった連絡帳を見たところ、「いつもお世話になっています。」の書き出しに始まり、「用件」が書かれ、「よろしくお願いします。」で結んで書かれていました。

お忙しい時間に書かれたと想像するに、簡潔でありながら、丁寧な文面に私は、とても感心しました。

担任には、「その保護者様の気持ちに寄り添って、返事を書いてください。」と指示しました。

【「特色ある学校」とは何だろうか】

先日の学級懇談会が終わって、たまたま児童玄関で保護者の皆様を見送っていたところ、何人かの保護者の方と話をすることがありました。

- ①「算数の勉強が、わかると最近、子供が言うようになって。少人数の学習が好きみたいです。」
- ②「本当は入学希望は、別の学校だったんですが、相川小へ入学させて良かったと思っています。今日もそうですが、先生方と親密に話ができて、距離が近い感じがして有り難いです。」

「特色ある学校」というのは、大きな行事や活動をすることが特色ではなくて、学校が本来すべきこと（わかる楽しい授業・一人一人の児童と教師のより良い関係や学級経営・保護者と良い連携作り等）を地道に大切にしていけることこそが、これからの学校の特色になっていかなければならないと感じています。